

甲状腺外科草子 49

飛行機嫌いの名機探訪：鹿屋

杉野 圭三

鹿屋航空基地は戦前より海軍航空隊が展開し、戦後も海上自衛隊の P-3C や P-1 など多数の航空機を運用する最重要拠点となっている。



P-3C(平成 30), P-1(令和 1), 鹿屋航空基地ホームページより

併設された鹿屋航空基地資料館には海軍特攻隊の遺品や海軍の資料が多数陳列され、知覧特攻記念館に勝るとも決して劣らない貴重な施設となっている。多数の飛行機も陳列され、その中でも「二式大艇」は世界唯一の現存機である。川西航空機が 1941 (昭和 16) 年、97 式飛行艇の後継機として開発し、航続距離 8223km、最高速度 465km/h、他国の飛行艇を遥に凌駕する高性能機として有名である。

戦後この飛行艇技術は、新明和工業で US-1、US-2 へと発展した。この機は平成 16 年「船の科学館」から移設された。



二式大艇 (平成 16 年、鹿屋航空基地ホームページ、同絵葉書より)

2018 年に機会を得て、この基地を訪れた。鹿児島市からのアクセスは悪く、時間がかかるのが難点である。霧島神社や周囲の黒酢メーカーの会社を見学しながら、のんびり行くのが良いかもしれない。鹿屋市内には「バラ園」もあり、開花時期と合えば楽しめる。



シーズンオフの鹿屋バラ園

現在、二式大艇の周囲には樹が生い茂り、全貌の景観が望めず残念である。



大戦中の二式大艇

樹木に覆われた二式大艇 (2018 年 7 月撮影)

基地内には現役を退いた US-1A 飛行艇も展示されている。US-2 が配備されるまで、米空軍の F-16 パイロットの救助や韓国海軍乗組員の搬送などで活躍した名機である。

改良発展型の US-2 は某ヨット遭難事故の時にその高性能が発揮され有名となったが、運用機は未だに 6 機のみと少なく、寂しい限りである。F-35 などの脚光を浴びる高性能機に比較すると地味な機種だが、戦前から代々と受け継がれてきた世界に誇る技術の継承・開発と安全保障・防災、人命救助などの広い観点からもっと高く評価すべき機種である。



US-1A 飛行艇

US2(新明和工業提供)



P-2J 対潜哨戒機

P2V-7 対潜哨戒機



S2F-1 対潜哨戒機

零戦 52 型

その他、多数の対潜哨戒機、練習機、回転翼機、戦前の発動機など、歴史的遺物が展示され、飽きることがなかった。資料館の受付の方の対応も素晴らしく飛行機嫌いの人でも、一度は訪れることを勧めたい。

(一甲状腺外科医の徒然なる随想)

2022 年 11 月 11 日